



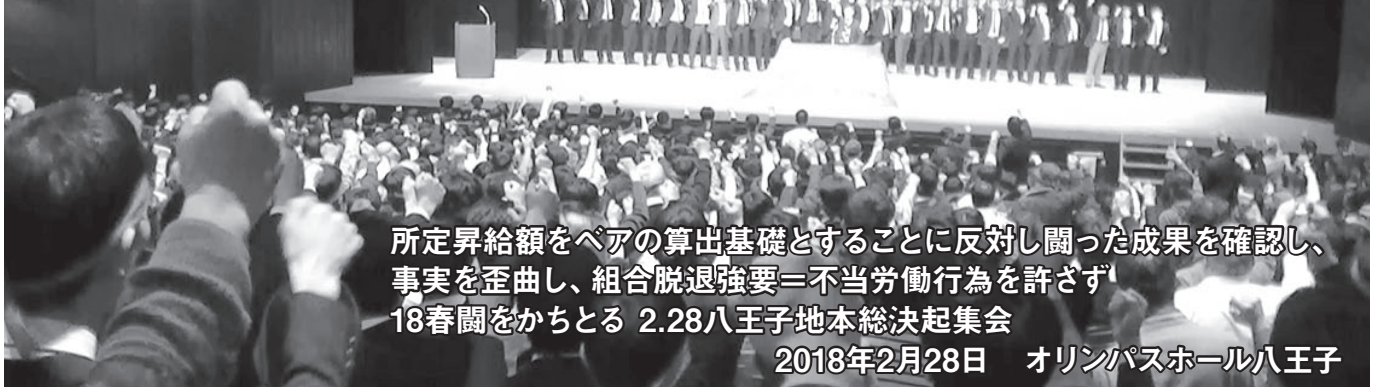
JR 東労組

はちおうじ

東日本旅客鉄道労働組合 八王子地方本部

No.199 2018 2/21 はちおうじ JR東労組 八王子地本

不当労働行為を許さず 組織破壊策動には組織強化で跳ね返そう!



所定昇給額をベアの算出基礎とすることに反対し闘った成果を確認し、事実を歪曲し、組合脱退強要=不当労働行為を許さず 18春闘をかちとる 2.28八王子地本総決起集会

2018年2月28日 オリジナルホール八王子

主催者あいさつ 八王子地方本部 執行委員長 金井 正明

基調報告 八王子地方本部 書記長 佐々木 宏充

JR東労組は2014年から4年にわたって「格差ベア根絶」に向けて闘ってきました。本部は闘争1号交渉を行い「ベアの実施にあたっては、これまでベアの算出基礎にしていた『所定昇給額』にこだわらない「物価上昇は全組合員に等しくふりかかるとある」を労使で確認しました。こうした確認ができ、紛争状態が回避されたために指令解除に至りました。団体交渉での確認に基づいて労働組合が闘争準備指令の解除を通知したのですから、それに基づいて誠実に対応するのが経営の責任です。いまだ多くの職場でJR東労組から脱退する組合員が出ています。これは、明らかに会社による脱退強要であり、不当労働行為です。断じて許す訳にはいきません。自分の意志に反して多くの組合員が脱退届を書かされている実態があります。更に会社は、勤労速報で「労使共同宣言」の失効を貼り出していますが、私たちは「労使共同宣言」の破棄など一切言っていません。労使共同宣言には「労使間の問題に当たっては、いかなる場合も、労使双方「信義誠実」の原則に従い、「労働協約」に則り、平和裡に労使の話し合いにおいて自主解決を図る」と謳っています。「労働協約に則り」です。労働協約には第2節「争議事項」が謳ってあります。つまり争議についても労使で認めているのです。そうすると会社の本当の狙いは何かという事です。私は新組合立ち上げが本当の狙いだと思えます。「ストライキ」「労使共同宣言破棄」をことさら強調し、経営幹部主導で今回の大量脱退が行われています。地本は申17号「一部経営幹部の『嘘・誤魔化し・恫喝・強要』による東労組に対する支配介入の不当労働行為を直ちにやめることを求める緊急申し入れ」を行いました。更に組織内外に脱退強要の現実を広めていきます。会社がつくろうとしている新組合は「御用組合」になります。行き着く先は、命令と服従の管理強化された職場です。組織破壊策動には組織強化で跳ね返そうではありませんか。八王子地本は不退転の決意で闘い抜く事を明らかにします。

18春闘について昨日本部が申し入れを行ないました。要求実現に向けて3月14日の回答指定日に照準を合わせて闘いを強化してまいります。しかし、八王子地本管内に留まらず数多くの脱退者が出ています。特徴として企画部門と現場管理者をはじめ、職務職場で一斉に脱退するという動きになってきています。組合員の皆さんに不安と動揺を与えてしまっています。事に対して心からお詫言を申し上げます。しかし、そもそも問題は何か、何が正しいのかを考え、今こそJR東労組の旗の下に結集し、御用組合への道を許さず立ち上がる事を強く訴えます。2月9日JR東労組第44回定期中央委員会が開催され、格差ベア根絶に向けてスト戦術行使の準備に入る事を方針決定しました。その後2月12日、産経新聞が「JR東労組スト検討」「定額ベア永続要求」「対立路線回避」などと、悪意に満ちた事実とは違う内容で報道がされました。以降、本社支社の経営陣が連日のように職場に入り、「スト」という言葉に異常に反応し、東労組が「未来永劫の一律定額ベア」を求め無理難題を押し付けているかのようになっています。私たちが求めているものは「所定昇給額をベアの算出基礎にしない」事のみです。したがって2月23日に開催された闘争1号「所定昇給額を算出基礎にしないベアアップの実施等を求める緊急申し入れ」の団体交渉において、ベアの実施にあたって、これまで、ベアの算出基礎にしていた所定昇給額にこだわらない事などが確認された事から、闘争準備の解除指令を發出し、労使の紛争状態が解決されたという認識に立っています。このように時々刻々と状況が変化しているにも関わらず、経営陣は未だに事実と違う、団体交渉で確認した事を捻じ曲げる勤労速報などを掲出し、職場に混乱を持ち込んでいます。そもそもここまで対立を困難に持ってきた根拠は2012年4月の新人事賃金制度導入時に、ベアの実施時について一切議論をしませんでした。ここは以前の基本給表が無くなった事から「ベアのあり方を議論しなかつた」事は組合側も問われて然るべきだと思います。当時はしばらくベアゼロが続き、2014年にベア獲得、そこでその算出方法に所定昇給額を用いる手法がとられ、はじめて問題に気づきました。それ以降2015年、2016年と格差は縮めたものの、本質的な解決にはなりません。また2017春闘では格差ベアに終止符を打つべくスト権批准一票投票を実施、82.3%で批准し、その確立したスト権を背景に一律10000円のベアをかち取りました。そして、今18春闘では「格差ベア

なせ私たちはここまでベアのあり方にこだわったのかというと、それは私たち組合員の将来を左右する重要な事柄だからです。私は憲法25条の生存権に関わる問題だと思っています。ベアはあくまでも物価上昇分、生活上の分として求めているもので、このベアに職務・職責まで持ち込まれては私たちの生活や未来の子供たちに安心した社会を築く事ができなくなってしまいます。2012年に導入した新人事賃金制度では、新たに職務に対応した職務給を所定昇給額として設けました。従って、この新人事賃金制度では年功賃金を維持しつつも職務と職責をより重視した制度として団体交渉で議論し合意してきた事柄です。この制度をさらに利用して「ベアにまで職務・職責を持ち込む事をやめて欲しい」が私たちの要求です。この要求は社会的な問題となっている格差社会問題と無関係ではありません。現にこの格差ベアを労使で約4年、議論してきていますが、この新人事賃金制度導入時の責任者が「ベアなんてもう無いんですよ」と口にした、と聞いています。そうすると、この新人事賃金制度を導入する時から、ベアの考え方を経営側は変えたのではないのでしょうか。その事を組合とあえて議論せず、自分たちだけに都合よく、バレなければいいという経営側のその態度と姿勢こそが問題なのです。経営の論理だけで行われてしまえば、私たち勤労側はモノのように扱われ、行き着く先は電通などの違法残業・違法行為が当たり前の暗黒な職場です。やはり私たち労働組合は、会社経営のチェック機能として存在しなければなりません。経営側は経費を削減し、かにか大きな利益を生み出すのが大きな目的です。そこで働く私たちはこの経営側の目的を理解した上で、人間としての尊厳を守り、社員・組合員の利益を考え、経営側が暴走しないようにする事が大きな役割です。昨今の経営陣はあえて私たちが無理難題を迫っていると醸し出し、あえて職場に混乱を持ち込んでいると言わざるを得ません。特に支社で働く組合員の皆さんになかなか真実が伝えられず苦しい状況になっている事も自覚しています。だからこそ私たちが何を求め、何で対立しているのか、正しく理解してもらい、決して流されず自ら考えて判断をして欲しいと思います。

ア根絶」を方針として掲げ、2月6日に申13号交渉を開催しました。しかし会社回答は、昨年よりも後退したものであった事から、確立しているスト権を含むあらゆる戦術を行使し闘う準備に入った、というのが今日までの経過です。

ストの次は労使共同宣言破棄、主目的は労組破壊

2月26日付で労使共同宣言の失効について勤労速報が出されました。社長は「JR東労組が明らかに事実と異なる労使間の交渉内容に関する見解を喧伝したのみならず争議行為を予告した事は、まさに会社との間の信頼関係を破壊し、労使共同宣言の趣旨精神を否定したものであり既に失効したものと見なざるを得ません」と述べています。これに対しても組合員の皆さんから不安・動揺の声を聞いています。しかし、そもそも無期限の協約を一方的に通知して、それで終わりという姿勢はどうかと思えます。だったら言わせてもらいますが、この30年間JR東労組に対する様々な行為は何だったのか、そしてそのことを労使で乗り越えてきた歴史をどう次の世代に継承していくのか明確にすべきです。今回の格差ベアの問題は2012年の新人事賃金制度導入時まで遡って議論すべき問題です。八王子では2007年に「揭示物の一方撤去事件」があり最高裁で会社側の不当労働行為が認定されました。2010年頃「会議室の使用方法」も労使議論を行ないまま施設管理権を盾に一方的に変更しました。東京でも団体交渉で確認した事を議事録確認し入れない「議事録未締結事件」「組合色差別人事」も行われいずれも私たちの勝利的な内容での和解が行われています。また「組合破壊の4本柱の手引書」も発覚しています。そしてかつりリーダー研修では反東労組社員・組合員づくりが行われていた事が発覚し、研修の中止も迫りました。私たちがその都度指摘してきましたが、こうした数々の行為は労使共同宣言に反していないのですか。昨年もストをやったから国鉄は潰れたなどと経営陣は嘘で職場を回りました。まさにスト

という言葉に異常に反応し、倫理綱を失っていると感じざるを得ません。団体交渉で労使が確認した事を何度も覆し、労使共同宣言の失効をわざわざ通知するのはJR東労組破壊のために対立の構図を意図的につくる必要があるからです。おそらく24日の闘争指令解除で会社のシナリオが狂ったからだと思います。脱退強要のためには会社はもうストライキをやめる組合だと描きだしたのです。労使共同宣言の失効は組合員に揺さぶりをかけ、何としても脱退させなければならぬからです。不当労働行為は犯罪です。それでもノルマ的に脱退強要しても数を増やそうとしている事は明らかに御用組合化を目指している事は明らかです。全組合員の皆さん、今こそ騙されず真実を見極めることが大切です。一時の空気に流されないでほしいと思います。

### 巨大権力に立ち向かえるのは組織の団結しかない

今回真実を伝えられず脱退させられた皆さん、この大量脱退は明らかに会社が真実を隠すために巧みに仕組んだ東労組破壊攻撃です。ストと春闘を超えた大掛かりな東労組組織破壊闘争労働組合破壊です。恐らく過半数以上を目指しています。だから「20日まで」とか「28日まで」に脱退届を出せ」と言われがままにやらされていくのだと思います。自分の意思があればハッキリと主張して議論すべき事柄です。分会役員が「とりあえず脱退届は預かるからしつかり議論しよう」と言つと「いいから受け取って下さい」とか、地本や支部にしかも全出出した事が残る「証明郵便」を送っているのは誰かに証明する必要があるからであり、間違いなく誰かの指示ではないでしょうか。もしかして郵送代も出ているのでは、と勘ぐってしまいます。そして仮に新組合、いわゆる受け皿が今作られるとすればこれも会社が仕組んでいる事は明らかです。皆さん、本当にこの巨大な企業権力に一人立ち向かえますか。私たちが個にさせられれば、限りなく人間生活を無視した生産性向上が行われ、働く者の犠牲の上にならなければならない「一流企業」になってしまいます。真の一流企業はそこで働く社員・組合員が働きがいのある労働環境・労働条件の下、家族も含めて人間らしい営みや生活を送る事が大切です。

### 東労組の総団結で18春闘要求満額獲得を目指そう！

昨日申15号2018年度賃金引き上げに関する申し入れを本部は本社に対して行いました。5つの要求です。①社員の基本給一律6000円②グリーンスタッフの基本給4000円③エール組合員の基本給4000円④定期昇給の実施、昇級係数を4とする事⑤回答指定日を3月14日とする事、と申し入れていますので、しっかりと聞いていきましょう。そして改めて争点であった所定昇給額をベースの算出基礎にこだわらない事を確認できた根拠は間違いなく、昨年格差ペア是正に限定してスト権を確立し闘争体制を組んで団体交渉力を高めてきた事に他なりません。この培った組織の団結力を更に強めて各職場から全組合員で要求満額獲得に向けてたたかいを強化すると共に、仕掛けられている組織破壊攻撃を断固拒否、御用組合化への道を断固拒否し、このJR東日本を健全に真の一流企業として安全で安心して働ける会社にもう一度創り直すために、JR東労組組合員の総団結と反転攻勢のたたかいを全組合員で果敢に立ち向かう事を強く訴え基調報告とします。頑張りましょう。

### 会社主導の脱退策動を許さず、東労組への再結集をかちとろう！

各系統で要員と業務量の問題で悲痛な声が上がっております。立川車掌区の要員問題も未だ解決していません。36協定違反もありませんが、いわゆるサービスマン労働者なども多く行われていることも地本としても把握しています。しかしこの現実を立ち向かうのは役員だけでなく全組合員が団結したたかいに決起し立ち向かう以外に労働者に力はありません。個にさせられたり、御用組合では労働条件はもとより雇用すら守れなくなっています。ひいては命に大きく関わる問題です。そして今起きています事態の核心は「経営側が意図して私たちの要求を過大に述べて、2012年にペアという考えを無くしていた事を隠して今日まで来ていた」という事です。よってきちんと真実を見極め、間違っても新組合への加入はせず、騙されていった皆さんを東労組の旗の下に再結集する事を強く訴えます。

- 【時系列】
- 2/6 ◇申13号「格差ペア」を無くし、全組合員一律のベースアップを求める申し入れ交渉
    - ・「当社の基本給は職能的な総合決定給である」とし新たな知見が示される。
    - ・会社回答は昨年より後退、労使の議論経過を蔑ろに。
    - ・スト権行使を含めたあらゆる戦術行使に必要な手続きに入ることを通告
  - ◇地本闘争委員会指令2号
    - ・専門部の設置と当面の闘い
  - 2/9 ◇第44回定期中央委員会「格差ペア根絶」に向け、あらゆる戦術行使で闘い抜くことを確認。
    - ◇(本部)闘争準備指令第1号「スト権行使を含めあらゆる戦術行使に向けた闘争準備指令」発出
  - 2/12 ■産経新聞「JR東労組スト検討」掲載
  - 2/13 ■会社幹部職場巡回開始
  - 2/14 ◇地本闘争準備指令1号「格差ペア根絶」実現に向けた戦術行使の準備指令
  - 2/16 ◇闘申1号申し入れ提出
    - 「社員の皆さんへ」① 富田社長
    - ・ストライキはお客さまに多大な迷惑をお掛けする
    - 豊田運輸区にて5名の管理者脱退、以降「20日まで」が脱退者の合言葉に。
  - 2/19 ◇中央闘争指令3号 東京地本への非協力闘争準備
  - 2/20 ■吉川委員長宛 争議行為中止の申し入れ 富田社長
    - ・「速やかに団体交渉において誠実に協議するように申し入れる」
    - 「社員の皆さんへ」② 富田社長
    - ・争議行為の実施はお客さまにご迷惑をお掛けする、業務の正常な運営を確保する
  - 2/21 ◇中央闘争委員会 早急な団体交渉を求め具体的日程2/23、26示す
  - 2/22 ■「勤労速報」2/23交渉開催と経協の中止を周知
  - 2/23 ■「乗務員・駅・設備関係社員の皆さんへ」掲出
    - ◇闘申1号 第1回交渉
      - ・所定昇給額を算出基礎にこだわらないことを確認
  - 2/24 ◇中央闘争指令4号及び地本闘争指令第3号
    - ・闘争準備指令第1号及び3号を解除
    - ・不当労働行為に抗するたたかいの体制を確立
    - 「勤労速報」争議行為解除の通知を周知
  - 2/25 ■「勤労速報」闘申第1号に関する会社の認識周知
    - ・JR東労組の見解との相違を流布
    - 「社員の皆さんへ」③ 富田社長
    - ・争議行為の予告を解除したものの、争議行為を機関決定したことが「労使共同宣言」の趣旨・精神を一面的に否定したものの、との見解を示す。
    - 「職場規律の厳正について」 支社総務部長
    - ・職場規律の厳正の観点から見過ごすことの出来ない問題事象が発生。
  - 2/26 ◇闘申第1号 第2回交渉
  - 2/27 ■「勤労速報」JR東労組闘申第1号に関する会社の認識
    - ・JR東労組の見解と会社の見解とは相違している。
    - ◇申15号「2018年度賃金引き上げに関する申し入れ」提出
    - 「社員の皆さんへ」④ 富田社長
    - ・新たな30年、自己啓発を会社の業務として支援、建設的で時間軸を意識した労使議論を通じてスピード感をもって実行していく。
  - 3/1 ■「社員の皆さんへ」④ 富田社長

### 決意表明

#### 三鷹駅分会 矢彦沢委員長

一部マスコミや会社からの嘘と捏造の揭示、「ストライキ悪」のキャンペーンに対して、組合員からの不安視する声もあがっていましたが、三鷹駅分会は総対話を通じて「会社や一部マスコミの情報に惑わされてはならない、ストライキが目的でなく、所定昇給額を算出基礎としたベースアップを止める事だけを求めている」ことを丁寧に説明し、勝利しなければグリーンスタッフの正社員化や安心して働ける職場の実現はありえない事を訴えてきました。職場では、会社からの掲示が見境無く貼り出され、皆がとても不安な気持ちで働くなど、職場の雰囲気は最悪です。しかし団結する事が会社に対抗できる唯一の手段です。長年培って築いた人間関係、団結している仲間同士を、卑劣な圧力で強引に引き離すような、脱退強要、不当労働行為は到底認められる事はできません。自分の意思に反して、苦渋の決断で脱退届を出さざるを得ない多くの仲間がいることを思い、また仲間が戻ってこられるよう、この状況を打開するために、会社からの圧力に屈しない、強固な関係を創り職場を守っていきます。これからは反転攻勢、18春闘要求満額回答をかち取り、会社からの不当な支配介入に対して、真実を伝え、安全で働き甲斐のある職場、みんなが幸せになれる会社にするために、三鷹駅分会一丸となって東労組運動を推し進めていきます。

#### 八王子保線技術センター分会 岩野副委員長

家族を第一に考え大切に、仲間たちの事を真剣に考える事のどこに問題があるのでしょうか。組合活動とはその手法に過ぎません。2014年から生まれた格差ペアについて5年間かけて議論してこられた会社の姿勢が変わらなかった、だから本気度を見せ、スト権行使の準備に入ったのです。目的はただ一つ、せめてペアだけは平等にして欲しい、この要求のどこが間違っているのでしょうか。目の前の仲間を助けたい、間違った方向に進んでいく状況を少しでも止めたいと真剣に実践する仲間を見捨てて自分だけとはなりません。我が子の時代やその先まで健全な会社でいて欲しいと思っただけです。前職の会社は倒産してこの会社に入った経緯もあり、二度と同じような経験をしたくない仲間にもさせたくありません。

#### 豊田運輸区分会 久木委員長

指名ストの闘い、昭和採用の先輩方は「ペアはこれから数年間働く若者の問題。お前たちの為に俺たち昭和探が引っ張る。いま闘わないと10年後、後悔するぞ」と力強く語ってくれ、その姿を見た若手も決意し、体制は盤石となりました。その一方で管理者を中心に脱退が相次ぎました。この行為

は国鉄改革の否定です。「自分さえ良ければ…」自分の出世の為なら…」こんな輩を許す訳にはいきません。しかも安全を司る指導助役ともあろう立場の人間が、私の乗務寸前に揃って脱退届を持ってこられるあたり安全を語る資格は全くありません。更に提出前後で区長室に入りますのは、会社主導によるものだからです。また、ある組合員は「今日受け取ってもらわなければダメ。どうかお願いします」と無理やり渡してきました。しかしその手は震えていました。その姿を見て私は、本当に悲しく感じました。こんな事があっていいのかと思ひ、悔しさと怒りがこみ上げました。この瞬間、私は会社と闘う決意をしました。管理者でも下を向いて申し訳なきように脱退届を出した人もいます。会社権力を使い平然と脱退強要させる行為を私は絶対に許しません。そして一言も話さずに郵送で脱退届を送り付ける人を私は認めません。堂々と不満・悩みを話しに来るべきです。昭和の先輩がいま私たちに大きな背中を見せてくれています。それに負けることなく、これからは平成のシニア、ミドルが若手に背中を見せる時です。

#### 立川運輸区分会 岡部委員長

分会は2月13日から総対話行動を展開し、なぜ私たちが「格差ペア」に反対するのかの議論を通じて、ベースアップに「職責に応じた処遇は必要ない」事を意思統一してきました。ストライキとは極めて安全問題だと強く訴え、機関役員と共に立ち上がってくれたのが分会シニア会の先輩でした。先輩たちが決意し、共にオルグを担ってくれた結果、分会では90名の仲間が指名ストを決意してくれました。一方で管理の仲間からの脱退届が相次いで提出されました。議論の中で彼らは「本意た・できれば辞めたくない・いつか東労組に戻りたい」と涙ながらに語る姿に、分会の責任者として仲間たちを守れなかった自分の弱さを痛感しています。しかし、会社の薄汚い口口による脱退強要に怒りが沸き、脱退強要の先にあるのが会社主導の新たな組織づくりならば、脱退した仲間を御用組合の先駆者にしてはならないし、奪われた仲間を取り返す闘いを組織の総団結で創り出さなければなりません。国鉄改革の闘いの教訓は「組織・仲間を信じる事」です。私たち指導部は常にそのことを意識して反転攻勢の闘いを創り出していきます。

#### 地本青年部 酒井青年部長

2月3日、地本青年部は青年部集会を開催し、18春闘を総対話を基礎に青年部から闘い抜く事を確認しました。皆さんの職場には笑顔が溢れているでしょうか。真実を語らず、言葉巧みに脱退を迫る会社の脱退強要策動に無自覚に脱退届を出してしまった青年部員がいます。不当な労使共同宣言破壊を背景にした人権無視の脱退強要を迫る会社の横暴を許す訳にはいきません。これらの闘いはこの先30年以上この会社で働く私たち青年部の問題です。